

■脱腸とは？

一般に脱腸と呼ばれている病気は、鼠径ヘルニアという病気です。「鼠径（そけい）」部とは、太もももしくは、足のつけねの部分のことをいい、「ヘルニア」とは、体の組織が正しい位置からはみ出した状態をいいます。「鼠径ヘルニア」とは、本来ならお腹の中にあるはずの腹膜や腸の一部が、多くの場合、鼠径部の筋膜の間から皮膚の下に出てくる下腹部の病気です。また、「大腿（だいたい）ヘルニア」は中年以降の女性に多くみられます。脱腸は子供の病気と思われがちですが、むしろ成人に多く、今回は成人の脱腸についてお話しします。

■どのような症状？

初めの頃は、立った時や、お腹に力を入れた時に太ももや、足の付け根の皮膚の下に柔らかい腫れが出ますが、指で押さえると引っ込みますし怖くもありません。

■怖い脱腸

次第に小腸などの臓器が出てくると不快感や痛みを伴ってきます。腫れが急に硬くなったり、膨れた部分が押さえても引っ込まなくなることがあり、お腹が痛くなったり吐いたりします。これをヘルニアのカントン（嵌頓）といい、入り込んだ腸が首を絞められた状態になり壊死（腐ってしまう）するため、急いで手術をしなければ、命にかかわることになります。これが怖い！脱腸なのです。

■治療方法について

そうならないためにも、治療が必要です。脱腸は、薬では治りません。手術が唯一の方法です。以前は、ヘルニアの穴の周囲の筋肉を縫い寄せて補強する手術が主流でしたが、現在では、メッシュと呼ばれる人工の網を使って穴をふさぐ手術を行うことがほとんどです。

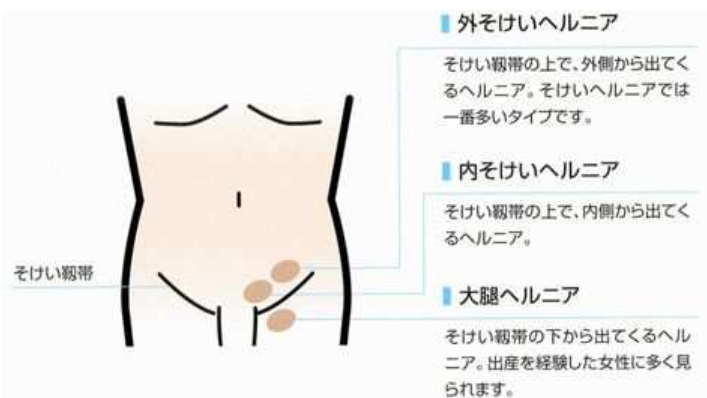
手術の方法としては、鼠径部を3～5センチほど切開して行う方法と、お腹に3カ所の小さな穴を開けて腹腔鏡で手術を行う方法などがあります。腹腔鏡による方法では傷口はより目立ちにくくなります。手術は入院で行うことが多いですが、日帰りで手術を行う施設もあります。

■どういう人がかかりやすい？

40代以上では、脱腸の発生に職業が関係していることが指摘されています。お腹に力のかかる製造業や立ち仕事に従事する人に多く見られます。便秘症の人、肥満の人、前立腺肥大の人、咳をよくする人、妊婦さんも要注意です。

■怖い脱腸になる前に医療機関を受診しましょう！

米国では脱腸で受診する人が年間80万人もいるといわれ、専門の外科医がいるほど一般的な病気です。日本では14万人と推定されていますが、多忙のため我慢をしていたり、「恥ずかしい病気」のイメージがあり、受診を渋っている患者さんもかなり多いと推定されています。もし、ご自身の症状が上記に当てはまる場合には、怖い脱腸になる前に、一度かかりつけの先生や、外科の先生にご相談ください。



茨城県医師会ホームページよりダウンロードいただけます。

URL <https://www.ibaraki.med.or.jp/>

検索 「茨城県医師会」 県民の皆様へ、健康いばらきをクリック！

